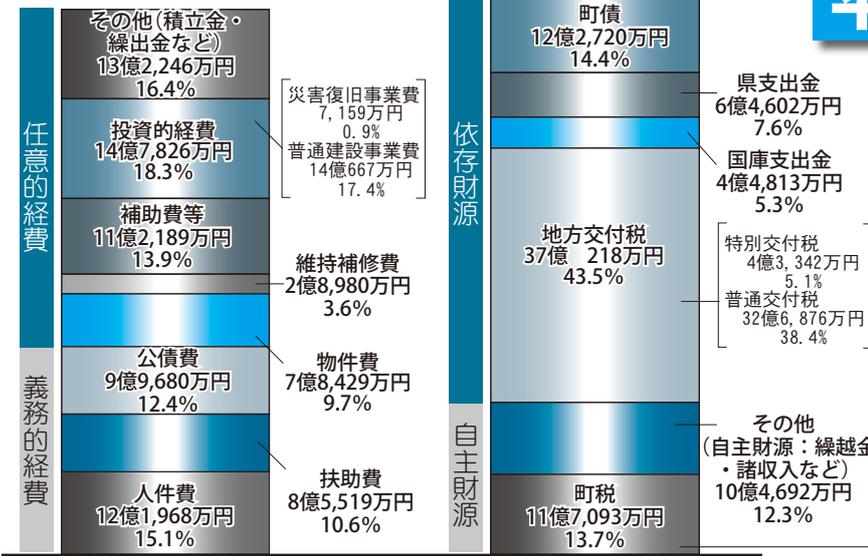


# 平成24年度 一般会計

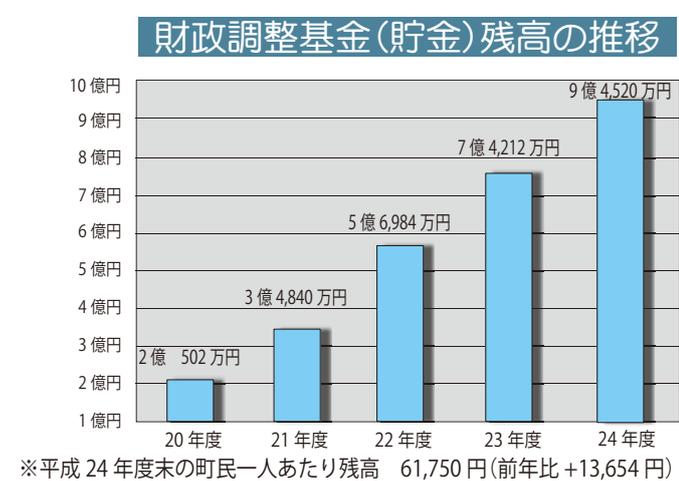
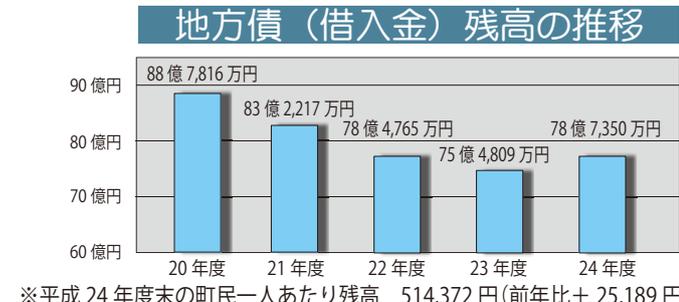
# 決算

使ったお金は  
**80億6,837万円**



**歳出総額**  
80億6,837万円

**歳入総額**  
85億1,543万円



### 特別会計・事業会計

会計名	歳入	歳出
十王財産区特別会計	114万円	20万円
下水道特別会計	5億1,917万円	5億444万円
国民健康保険特別会計	17億547万円	16億108万円
農業集落排水特別会計	1億3,225万円	1億2,635万円
介護保険特別会計	14億8,238万円	14億5,820万円
後期高齢者医療特別会計	1億4,119万円	1億4,049万円
水道事業会計<収益的収支>	3億902万円	2億7,104万円
水道事業会計<資本的収支>	1,276万円	1億4,904万円
病院事業会計<収益的収支>	11億2,748万円	11億4,979万円
病院事業会計<資本的収支>	1,456万円	1億5,090万円
訪問看護ステーション事業会計<収益的収支>	2,974万円	3,134万円
合計(一般会計を含む)	139億9,059万円	136億5,124万円

※万円未満は端数調整あり

### 主な基金(積立基金)の積立状況

名称	金額
財政調整基金	9億4,520万円
減債基金	2億2,338万円
公共施設整備基金	1億9,084万円
体育館建設基金	1億787万円
福祉振興基金	1億255万円
その他の基金	1億5,222万円
積立基金合計	17億2,206万円

**基金とは**  
町の預貯金のことです。財源不足に備えるための財政調整基金のように特定の目的のために積み立てるもの(積立基金)のほか、特定目的のために定額の資金を運用するためのもの(定額運用基金)があります。

平成24年度は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災や、かつてない急激な円高などの影響を受けた情勢の中ではありませんでしたが、「笑顔がやき、心かよふ 美しいまち」の実現に向けた歩みを着実に進め、諸課題に対して積極的に対応する行政運営に努めてきました。

一般会計における決算は、歳入総額で2億134.1万円(2.6%)、歳出総額で3億192.7万円(4.1%)前年度を上回る結果となり、収支差引4億470.6万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができる町税などの**自主財源**は、寄附金やスポーツ振興くじ助成金の増加などにより前年度に比べ約4100万円の増となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債(借入金)などの**依存財源**は、約1億7300万円の増となりました。

歳出については、その性質別に見ると、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、扶助費が子ども手当などの減少により約200万円の減、公債費(借入金返済)が約1億9700万円の減となりました。義務的経費以外の**任意的経費**では、小学校耐震診断の委託などにより、物件費が約1300万円の増となりました。また、普通建設事業費が、子育て支援拠点施設整備事業などの増加により約4億6400万円の増となりました。そのほか、将来の財政運営に対する財源確保のために財政調整基金に2億円の積立を行いました。

基金(預貯金)残高の増加など、財政の健全化に努めていますが、歳入全体における自主財源の割合は依然低く、交付税や補助金などへの依存度が高い状況にあります。特に、地方交付税のうち普通交付税が約1億9100万円の減となっており、自主財源の確保が大きな課題です。加えて、投資的経費の増加により地方債(借入金)残高が増加に転じるなど、町の財政は安定しているとはいえません。

地方財政全体が厳しく、先行き不透明な状況ですが、安心・安全な暮らしの確保に向けて、計画的な行政運営に努め、みなさんからいただいた貴重な税金を活かしてより良いまちづくりを進めていきます。

※目的別の歳出については、7ページの「歳出を町民一人あたりで見ると」を参照ください。